

安曇野市穂高交流学習センター運営委員会 会議概要

1	協議会名	平成23年度第2回安曇野市交流学習センター運営委員会
2	日時	平成 23年 12月 13日 (火) 午後1時30分から午後3時30分まで
3	会場	豊科交流学習センター“きぼう”2階 学習室2
4	出席者	本山委員長、野中副委員長、宮下委員、神谷委員、山浦委員、小平委員、山本委員、牛山委員、米澤委員、鈴木委員
5	市側出席者	小松教育次長、原野文化課長、赤堀穂高交流学習センター所長、山崎豊科交流学習センター所長、深澤図書館係長、山田文化振興係長、村上文化振興係主事
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成 23 年 12 月 20 日

協 議 事 項 等

1	会議の概要	<p>(1) 開 会 (原野課長)</p> <p>(2) 教育委員会挨拶 (小松教育次長)</p> <p>(3) 協 議</p> <p>(4) 豊科交流学習センター 施設見学</p> <p>(5) 閉 会 (原野課長)</p>
2	協議概要	<p>委員長・協議に入る前に、本日の協議事項以外に全体を通して協議に加えていただきたいものがあれば、今お出しいただきたい。</p> <p>委員・(配布資料の内の施設パンフレットについて) 開くとまず載っているのが施設利用に伴う料金の案内というのは、広報資料としておかしいのではないだろうか。施設を利用していただくための案内の資料が、そういったことではよくないのではないか。</p> <p>2009年4月お知らせ版の広報あづみに「穂高交流学習センターの管理および事業運営計画が決定」という記事があった。当然、これは本会議の基礎資料として配られるものだと思っていたが、担当の方に私の申し出を受け止めていただけなかったようなので、用意があるので今お配りしていいか委員長にお伺いする。</p> <p>委員長・これは、協議に加えたいということか。</p> <p>委員・意見ではありませんので、ご紹介だけで結構。</p> <p>一面に載るのと中面に載るのとでは印象が違う。交流学習センターの記事は10ページ目である。住民の方は一面に載っている記事には注目するが、中面まで読んでいるという方は少ない。職員も広報に目を通すべきである。それを徹底すれば、市の行政は変わるだろう。</p> <p>委員長・これは、穂高交流学習センターだけの問題ではないかもしれないが、穂高交流学習センター所長から何か意見あるか。</p> <p>委員・私は、文化課長からお答えいただきたい。</p> <p>事務局・穂高交流学習センターの2009年の9月開館に向けて、管理および事業の運営計画をつくった。これについて、広報等を通じてパブリック・コメントをお願いした。お配りいただいた資料は、市民の皆様から交流学習センターができた暁には「どのように利用していただくか」「どのように運営していくか」といったことについてご意見を伺った際の資料である。頂いたご意見を参考にしながら穂高交流学習センターの条例や管理規則等をつくったという経緯がある。豊科交流学習センター開館の際にも、同様の手順で広報に掲載している。したがって、パブリック・コメントを頂いた運営計画が、規則及び条例に反映されている。</p> <p>配布していただいた資料には、交流学習センターの様々な計画、運営方法等が載せており、運営委員会の協議の参考にしていただく上で大変結構な資料をご準備</p>

いただいた。本来、私共が手配すべき資料を委員の方より頂戴したということで感謝申し上げたい。

委員長・公民館は、各地域に根差したコミュニティ施設として、地域社会が地域の住民のために自分たちの力で活動する施設であるといえる。それに対して、交流学習センターというのは、行政が積極的に介入し、全地域的に広域な活動を行うことができ、外部への発信力がある施設だと思う。それを踏まえて、公民館とは違った活動をしていくために、行政と共に何ができるか提案していただければと思う。

委員・そんなに難しい説明を要求しているわけではない。

私は、さっと見た時に似たような事業を何とか統一できないものかと、簡単な思いで元々取り組んでいた。今回が第2回目ということで、この委員会はどのような形で進んでいくのかと考えた時に、運営ということで、自主企画事業について予算的にはどのようなになっているのか、もしくは、組織的にはどのようなになっているのか、教えてもらいたい。そういった中で、事業計画が良かった悪かったということについて互いに追求していくことができるのではないだろうか。

その基本的な部分について、わからなかったのでお伺いしたかった。

委員長・この前の時もそういったお話が出たかと思うが、今回の資料の中にもそういったものが示されていないということは、何か予算についてこういった場に出すということで問題があるのか。

事務局・予算的なものを公表することについては、差し支えない。

委員長・では、是非そういった数字も付け加えていただきたい。

委員・事業の内容の中で費用がどれだけかかっているかというのは事業の結果報告の中であるが、まったく費用が0ということはないと思う。そういった費用がどういったところから出ているかということまでの詳しい資料は求めないが、一つの資料として頂いておけば、これからの話し合いの材料になってくるのではないかと思う。

どのくらいの範囲で、どのくらいの予算があるのかという程度は委員として理解しておいた方が話を進めていく上で都合がいいのではないかと思う。

委員長・一つ一つの事業についてでなくても構わないので、予算の状況が分かるものを出していただければと思う。

事務局・折りをみて、年間の事業費、管理運営に係わる資料等を委員の皆様にお示しできればと思っている。

委員・全体に係わることということで、この会議の議事録を事務局から発行していただくことはできないか。この場で、いろいろと皆さん発言するがそれを記憶に残して、後でどのように対処したか、どういう制約があつてできなかったのか、ということとその都度確認していかないと、ただ言いつ放しになってしまつてしまうのではないか。

議事録を発行していただければ、会議に欠席することがあつてもどういったことが話し合われたのかということが確認でき、次の議論につなげていけるだろう。

箇条書き程度でいいと思うので、こういう要望があつた、どういった意見が出たということが分かるものをつくっていただければいい。

事務局・今ご要望のあつた会議録は、きちんと整理をし、後日、市のホームページにて掲載している。

本日の会議についても、まとまった時点で、委員にお送りさせていただく。

委員長・ホームページ等、確認できない委員もいるので、是非そのような対応をしていただきたい。

それでは、時間も無くなつてきたので議事を進めさせていただく。

(1) 今年度事業の進捗状況について

事務局より穂高交流学習センター及び豊科交流学習センターについて報告

委員長・いま報告のあつた反省等が、今後の事業に活かされていくと思うので、ご意見、質問を出していただきたい。

- 委員・・事前に配布された資料、訂正資料、当日の資料と3点にわたっている。これでは、非常に見づらい。一つにまとめていただいて、一週間以上前に送っていただいて、事前に目を通してというのを前提に要点だけを10分程度できちんと説明していただいて、後はディスカッションする時間にしないと、ただ説明を聞いて後の残り時間が少ないからと言っているようでは、会議としてわざわざ出てくる意味がない。
次回からきちんとしていただきたい。
- 事務局・今回の事前にお配りする資料を見直し、議論を深めるには反省や課題といったものを皆さんにお示しした方がいいだろうと考え、急遽追加分を作るように指示したため、このような状況になってしまった。お詫びしたい。
次回からは、仰るとおり一つの資料の中にまとめ、誤字脱字のないようしっかりチェックをし、お渡ししたい。説明についても、事前にご確認いただいていることを前提にして進めていきたいと思う。
頂いたご意見を取り入れて、今後は行っていきたいと思う。
- 委員・・4月の広報あづみので交流学习センター運営委員の募集の案内が出た際に、企画や運営、評価などを協議するとあったので、応募したが、第1回目の会議では評価らしきことがなかった。第2回目では、何か評価らしいことがあるかと思い、送られてきた資料を見たが、第1回目と変わらないので、これではいけない、意見が出せないと要望を申し上げた。その結果、今回追加というかたちで資料が出た。
私は、こういうかたちで出していただくことを望んだわけではない。事務の方が大変なところをご努力いただいたと思うので、今後活かしていただければと思う。
- 委員長・私も、司会をするという立場で事務局に対して、皆さんが納得できるような、こういったことをしたら、こうなったというのが分かる資料があると有難いということをお話したところ、2、3日の間でこういった資料を作ってください、感謝している。
両施設とも非常に職員が少ない中で、ものすごい量の仕事をこなさなくてはいけないので大変だと思うが、今後の基礎を作ってくださいと思う。
付け加えて言うと、豊科図書館は、豊科公民館内にあった頃より利用者の数が急増しており驚いた。現在は、何人の方がお勤めになっているのか。
- 事務局・全員で8名になる。
- 委員長・それだけの人数で、以前の倍以上の利用者の対応をしなければいけないというのは大変なことだと思うが、図書館というのは、その地域の文化のバロメーターのようなものだと思うので、今後ともよろしくお願ひしたい。
- 委員・・学習室について、穂高交流学习センターでは地域学習室が講座等予定の無い日は、無料で開放ということだが、そこで子どもたちが勉強等をしにそこに入るといふことか。
豊科交流学习センターでは学習室を子どもたちの自習室として利用できると聞いたが、特に無料で子どもたちに開放しているということは施設案内パンフレットには記されていない。
旧豊科図書館の時には、子どもたちは部屋の片隅に勉強をしに来ていた。豊科図書館は、中央図書館と地域の図書館という違いがあって、会議等のない時には常時自習用として開放していく予定はないのか。
- 事務局・常時、学習室2もしくは学習室3を自習室として開放する予定になっているが、外部からの利用申込みが入る場合もある。それでも、最低一部屋は自習室として確保するよう努めている。
図書館についても、多目的室という部屋があり、開放しているので、学生はこの部屋をご利用いただくこともあり、ご案内もしている。
- 委員・・図書館で自習ができるというのは、旧豊科図書館の頃からある利用形態なので、今後も確保してほしい。

穂高交流学習センターの地域学習室及びグループ研究室は無料ということではないのか。

事務局・はい。

委員・・豊科交流学習センターは、どの部屋もお金を取るようだが、この違いはどういった理由があるのか。

事務局・穂高交流学習センターには、基本的には貸し部屋というのが無い。ただし、ホール及び展示ギャラリーは有料でお使いいただける。また、地域学習室には、基本的に自習のための部屋なので、個人の申込みにより開館時間中は常に無料でご利用いただける。

豊科交流学習センターの6つの学習室については、自習でご利用いただく場合は全て無料である。外部の方に学習室を利用させていただく場合の使用料が施設案内パンフレットに載っているものになる。いろいろな用途に対応できるように、部屋が小分けになっている。自習室としての利用需要は年間を通して、安定的にあるわけではない。自習希望者が無い時に、外部からの要望があれば、貸し部屋としてご利用いただける。反対に、自習希望者が多い時には、最低でも一部屋は自習室として確保するようにしている。

近年は、図書館を本を読んだり借りたりするだけの場所としてではなく、静かな環境、設備の整った快適な空間として、勉強に訪れる方が増えている。私共は、そういった方も図書館利用者として、できるだけ学習の場を無料で提供していただけるよう施設の運用を進めていきたいという思いがある。

委員・・明科の「ひまわり（明科子どもと大人の交流学習施設）」にも図書館が入っていると思うが、あそこも貸し館対応はしているのか。

事務局・はい。

委員・・貸し館として、料金を取っているということか。

事務局・はい。

委員・・市内施設は、中央図書館とそれ以外の各地域の図書館という考え方なのか。

事務局・中央図書館というのは、蔵書数においても施設規模及び設備においても安曇野市の中央図書館という位置づけをしているので、他の4地域の図書館とは一線を画している。

しかし、全体的な流れの中で学習の環境の整備というのも含んでいるので、そういった場所を提供していただけるよう努めていきたいと考えている。

委員長・本来、自習室というのは図書館の附属施設ではないのではないのか。

事務局・はい。空いている時に有効にお使いいただきたいという思いがある。

旧豊科図書館の時に比べれば、図書館内で学習するためにお使いいただけるスペースというのは増やしている。しかし、占有してしまうと後から来た方にご利用いただける場所が無くなってしまうという場合も出てくる。そういった場合に、お使いいただくという考えでいる。

委員長・ロビー等でも学習している姿を見かけることがあるが、是非、学習室が空いている時には、自習室として活用していただきたい。

委員・・穂高交流学習センターの地域学習室及びグループ研究室の利用状況だが、地域学習室はかなり活発に利用されているのがわかるが、グループ研究室については記載が無い。グループ研究室の利用状況はどうなっているのか。

私もグループ研究室を使ったことがあるが、申込みは使用日の1週間からでなくてはできないというのは非常に不便だった。豊科交流学習センターは、貸し館が有料だが、申請期間にいくらか余裕があるので、こちらを利用することにした。

穂高交流学習センターのグループ研究室を利用する際には、研究内容を発表、報告していただきたいと言われた。確かに利用規定にも書かれていることではあるが、発表するということがグループ研究室を利用する条件になるのか。

両施設の利用条件に違いがあるのがわからない。今は、豊科交流学習センターの方が面倒が少ないので利用しているが、月曜日が休館になるので、そういった場合には穂高交流学習センターを使いたいと思っている。

事務局・穂高交流学習センターについては、グループ活動室という部屋もある。穂高交流学習センターは、図書館とホールと地域学習館としての機能を併せ持った交流学習センターという位置付けである。地域学習室については、地域の学習にお使いいただけるよう、個人利用を目的として開放している。グループ研究室については、施設案内パンフレットにあるように、2人以上のグループが図書館の資料等を利用して学習をしていただき、その成果を研究、調査、発表まで行い、できれば穂高交流学習センターのホールあるいは展示ギャラリーで公表していただきたいという条件を付けさせていただいている。これは、学習を自己完結で終わらせてしまうと、新たな交流が生まれにくいという考えがあるからである。グループ活動室については、図書館ボランティアの方が使う部屋になっている。

グループ研究室については、あまり利用がされていないというのが現状であり、利用条件が厳しすぎるといことも感じている。本日、委員の方からもご意見頂いたので、できるだけ大勢の方に利用していただき、そこで学んだことを何らかのかたちで発表していただき、そこからまた新たな交流が発展していくよう検討させていただく。

委員・グループ研究室の申込みの際、大きな声を出すと地域学習室の方に声が筒抜けになってしまって大変苦情が出るので、なるべく小さな声で話してくれと言われた。それは、壁に防音材を貼り付ければ済むことではないのか。それぐらいのことであれば、それほど予算も掛からずできる。普通に話ができるぐらいの対応はしていただきたい。

グループ研究室は、どのように使われているのか。いつ行っても利用者が居らず、勿体無いと感じている。そういった制約のせいもあるかもしれないが、是非ご検討いただきたい。

委員・グループ研究室の申込みは1週間前からというのは、規定等で決まっていることなのか。

事務局・本来は、図書資料等を用いて複数の方が学習できる部屋として確保した部屋である。そのため、そういった利用者に配慮した結果であるが、実際使いにくいというのは確かなので、検討課題とさせていただきたい。

ご指摘いただいた壁の防音性能については、ある程度ご利用いただかないと把握できなかったことなので、是非その他にもお気づきのことあれば対応できることは検討していきたいので、またお出しいただきたい。

(2) 平成23年度11月以降の事業計画について

事務局より穂高交流学習センター及び豊科交流学習センターについて説明

委員・企画そのものは素晴らしいが、残念なことに人が少ない。広報等での周知が足りないのではないかと。広報あづみのに掲載しても印象に残らない。新聞等の当日見て分かるような方法で広報したり、駅に掲示した方がいい。あれでは、企画が勿体無い。地元の方に見ていただくのは、有意義なことなのに、私自身も知らずに過ごしていることが多い。施設を訪れてやっと企画の存在を知るのでなく、事前の周知に是非ご尽力いただきたい。

委員長・両施設とも今後の目標として、「活動内容や事業などが市民に確実に届くよう情報発信機能の充実を図る」ということを挙げているが、広報あづみによる宣伝は、非常に情報量が少なく、見落としがちである。これだけの施設を建てたのだから、大勢の人が集まるといのが重要である。是非、広報には工夫していただきたい。

事務局・新聞社等へイベントの周知については、お声掛けしている。また、市のホームページでも掲示するようにしている。しかし、ご指摘のあったように目を引くようなものをつくるという工夫は必要だと思う。

是非、良いアイデアがあればお教えいただきたい。

委員・私も、広報には関心を持っている。3月の震災以降、各新聞社は文化欄を大幅にカットしてしまった。市は広報として、ポスターやチラシを大量に印刷するが、

それらはただ配るだけである。これでは、広報にならない。手渡しでもして「良いものを行っている」と伝える努力をしなければ、企画が生きない。市の職員も広報に目を通していない。市の職員自身が知らないものが、市民に伝わるはずもない。少なくとも、市内各施設の行事については把握していただきたい。その上で、どういう手立てがあるか知恵を出せと言われればいくらでも出す。

安曇野の伝統文化を学び、継承することも結構だが、将来のある子どもたちに豊かな文化を知っていただく機会を交流学習センターで力を入れて働き掛けていただきたい。

図書館係で行った図書館見学ツアーは、大変苦勞して行ったと聞いている。こういった企画は、教育委員会内の企画に含まれているのだから、教育委員会全体を動かして子どもたちにそういったツアーを積極的にPRするくらいの努力をしていただければと思う。

事務局・一方通行のような、発信するだけでは不十分だということは重々承知している。やはり、2次的に発信してもらえ部分も検討していかなければならないと思う。例えば、ブログで紹介してもらおうというだけでもかなり効果は期待できるだろう。

委員・私は、インターネットをやっていない。インターネットをご覧になる方は、現地には行かない。もし、インターネットを通じて企画を知ったとしても、現地には行けない。そういった現状をご存知か。

先日、塩尻市のえんぱーくに講演会を聞きに行った。「最近、読書離れと言われてるが、これをインターネットのせいにするのはおかしい」ということを伺った。作家、編集者、出版社、読者も含めて全員に責任があるとも仰っていた。良い作品が無い、良い出版物が出ない、だから読書離れが起こるのであって、それを簡単にインターネットが悪いと言って片付けるなということである。

確かに、インターネットのメリットはあるので、活用は必要だが、それだけではないということをご承知置きたい。

事務局・はい。それに加えて、口コミ等でたくさんの方に広まっていけばと思っている。そのため、たくさん情報を出していかなければならないだろう。

委員長・頂いた意見を参考にさせていただいて、工夫していただければと思う。

委員・広報の件だが、前回の会議で最も簡単にできることをお願いした。

穂高交流学習センターに入った際に、1週間のイベントがどこでこういったものをやるかというのをすぐ分かるような案内を作ってほしいとお願いした。こうしておけば、図書館のみの利用で来た方も、少し展示等の他のイベントも覗いてみようという気になるのではないか。こういったイベントの案内というのはどこに行ってもある。

そば猪口アート展を行っていた際には、外に大きな看板が出されていたが、中に入ると何も案内が無かった。

先日の、朝日新聞主催の写真展があったが、知人に紹介されて初めてそのことを知った。少なくとも図書館を利用するために来館した方が、入り口でぱっと見て分かるような案内が、なぜすぐにできないのか。是非、つくってほしい。

事務局・前回の会議でのご指摘を受けて、ボードで作ったものを設置させていただいた。

委員・そういったものは見掛けていないが。

事務局・半月前の予定からお出しするようにしている。

委員・確認してみるが、そういった所からしっかり取り組んでいただきたい。

委員長・広報あづみのも限られたスペースの中でやりくりするのは大変だと思う。市内には、両交流学習センター以外にもたくさんの文化施設があるので、全てを紹介するのは難しいと思う。しかし、何か両交流学習センターのイメージを高めるようなものがあれば、工夫していただければと思う。

委員・穂高交流学習センターの事業計画の中に、企画展「安曇野のくらしと産業」というのがあるが、企画の趣旨は立派だと思うが、同一の企画が2ヶ月も展示ギャラリーを占領するのはどういうことか。せいぜい1ヶ月にするか、長期間やるので

あれば展示替えをするなどして、見る人を飽きさせない工夫が必要である。同一の展示を2ヶ月やるのは、怠慢あるいは横着であり、あまり感じが良くない。ただ、関心が薄れてしまうだけである。なので、工夫していただきたい。

穂高交流学習センター事業報告内の成果と反省でも、企画展「安曇野水物語」の課題として、長期開催の会期については見直しが必要であると書かれている。しかし、またたつぷりと2ヶ月も使うとなっているのは、反省がどのように活かされているのか、あえて行うことなのかお伺いしたい。

事務局・前回の会議での指摘を受けて、担当とも2ヶ月の会期については話をしたが、他の企画がこの時期入りづらいということもあり、このように設定した。
貴重なご意見として、今後の参考にさせていただく。

委員・・以前、他の部署の方と話した時に、「安曇野の文学と写真展」というのを提案された。臼井吉見の『安曇野』の中の文章を抜粋し、昔の写真などと一緒に展示し、図書館などとタイアップしていけばいいのではないかと。非常に教育委員会に相応しい企画だと思い、私は納得した。

委員長・各施設とも少人数の中で対応している。是非、委員の皆さんにもご協力頂き、建設的な意見を出して頂きたいと思う。

以上